



口一作戦



川崎ゆきお

「元気がなくても出来る。やる気がなくても出来る。いやいやながらも出来る。頑張らなくても出来る。そういうものを見付けられなかったのが私の人生最大の失敗です」

「ほう」

「まあ、徐々にそうやって修正してきましたがね、気付くのが遅すぎた」

「ほう」

「元気がなければ出来ない。やる気がないと出来ない。好きでないと出来ない、怠けていては出来ない。そういう反対側を考えなかったのですよ」

「ほう」

「若い頃、飛ばしすぎたのでしょうなあ。ほらよくいるでしょ、マラソンで、最初からトップになり、中盤まで行かないうちに落伍する。終盤まで残ればいいでしょうが、半ば以前で落ちていく。飛ばしすぎなんでしょうなあ。まあ、マラソンと人生とは違いますので一概には言えませんがね」

「しかし、先生の説だと、あまり大した仕事は出来ないと思いますよ」

「じゃ、大した仕事って何ですか。それだって、その仕事が本当によかったのかどうか、世の中のために役立ったのか、逆だったりしますよ」

「しかし、そんなやる気のない状態ではだめなんじゃないですか」

「それが悪い行為だったとした場合、つまり、やっていることがあまり好ましくない事柄の場合、やる気がないので、大きな成果は上がらない。だから、罪が軽い。まあ、いい事柄で、やる気がなくやった場合埒らないので、世の中の役には立たないこともありますかね。どちらに出ても弱いということです」

「しかし、仕事でも何でも頑張ってやった方が気持ちがいいでしょ。やりがいもあります」

「だから先ほど言ったでしょ。頑張れないとき、困るわけです。だから、ラインを下げ、パワーを下げた状態で進んだ方がいいのです」

「それは何か狡そうな」

「まあ、パワー全開で頑張った人が三年ほどでバテて、そこで終わっても、頑張っていない人は無理をしていないので、十年、二十年と続けている。結果的には頑張っていなかった人が成果を出すかもしれませんよ」

「つまり、ロー作戦ですか」

「そうです。低く低く、下から下からです」

「しかし、好きなことを、好きでやるのはいいでしょ」

「好きな事柄ほど嫌いになったりしますよ。もう二度と触れたくないようにね。だから、好きなことをするのも長続きしません。いつ嫌いになるか分からないし、好きなことばかりやっていると、それほど好きではなくなってきましたからね。それよりも嫌いなことでも出来る方がいいのです」

「嫌いなことをやるには相当頑張らないとだめなような気がします、この矛盾は」

「それも一つです。つまり矛盾していていいのです。矛盾を気にするとだめです。矛盾する事柄の方が世の中多い。当然自分自身の中でもね。嫌いなことなら、楽しめない。だから最初から頑張る気はない。期待感がないので、頑張る意欲もない。だから、頑張って嫌いなことをしなくても、頑張らなくても嫌いなことが出来ますよ」

「はい、頑張って、その口一作戦、やってみます」

「だから、頑張ってやると失敗しますから、頑張らないでやるのです」

「はい、頑張ってみます」

了